

東京経済大学大学院 経営学研究科 入学試験 (2026年度 2期入試)

課 程	修士課程
入試区分	留学生入試
試験科目	日本語
出題意図	国内の専門書、学術論文を読解できる日本語能力について日本語能力試験N1レベルの読解力・表現力・創造力を問う問題である。
解答例	<p>解答例を公開することは、受験生を特定の解答に誘導し 筆記内容が画一的になる恐れがあり、筆記試験が意図する知識・思考力・表現力・創造力等の把握を困難にするため、解答のポイント（採点基準）のみを公表しております。</p> <p><解答のポイント（採点基準）></p> <p>主に以下の点を評価対象とする。</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 自らの関心に即して、設問の解答に必要な事柄を明確に認識できていること。(2) 上記の認識に基づき、設問に対して、論理的・創造的に解答できていること。(3) 上記の諸点を無理なく読み取れる文章を作成できていること。

※ 公開している入試問題等について、私的利用以外の目的で複製・転載・転用することを一切禁じます。

2026年度

大学院経営学研究科・修士課程

(留学生入試 2期)

入学選考試験問題 (試験時間 1題 60分)

【12:30～13:30】

2026年 2月16日実施
東京経済大学大学院
経営学研究科

※ 「受験番号」欄のある解答用紙(1枚)を提出すること。

日本語

問題

近年、米国では、AIによる代替が難しい現場職(ブルーカラー)で成功を収める「ブルーカラービリオネア」が注目されている。日本においても、タクシー運転手の給与が大幅に上昇するなど、現場職の価値が再評価されつつある。また、調査によれば、ホワイトカラー層の約7割が「条件次第では現場職への転職も選択肢になり得る」と回答しており、職業観の変化が進んでいる。

このように、ホワイトカラーからブルーカラーへの転職が加速する可能性がある中で、企業はどのように対応すべきであろうか。米国の状況と比較しつつ、自国や日本の企業が取るべき対応について、あなた自身の考察を600字以上800字以内(句読点を含む)で述べなさい。